（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	シルビアン　レクトレセンター			
○保護者評価実施期間	年　月　日	～	年　月　日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	0名/対象児童なし	（回答者数）	0名/対象児童なし
○従業者評価実施期間	令和　7 年 5　月　12　日	～	令和　7 年　5　月　23　日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6名	（回答者数）	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和　7　年　5　月　　28　日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	◎視覚支援 視覚的なツールを活用し、支援の配慮を行っています。イラストが理解しやすい、文字が理解しやすい、写真が理解しやすい、英語が理解しやすいなど児童にあわせた様々なツールを試行錯誤しながら制作し、使用しています。	全員が同じものを使用するのではなく、個々に合わせた理解しやすいツールをそれぞれ準備して視覚支援を行っています。相互理解が得られないものは職員間で話し合ったり、保護者の方々や学校の先生、併用事業所からも助言いただき改善に繋げています。	個々に合わせたツールを活用し視覚支援を広げていきます。家庭や学校で使用している実物を見せていただき、模倣したり事業所に合わせたものに変化し提供していきます。取り組んで効果が得られなかったものはまた支援方法をかえ、その時々に最適な方法で支援できるよう努めていきます。
2	◎個別療育 個々に合わせた支援内容、療育を行っています。ニーズにあわせたプログラムを提供するだけではなく、数種類のプログラムから本人に選択してもらい意思決定支援も行っています。	難しい内容ではなく、日常生活を送る中で必要な自立支援に向けての療育を取り入れることで、取り組みやすくなっています。また、本児が楽しく積極的に参加できるよう興味関心のある物を使用したり、レクリエーションの中に導入したりと工夫しています。	保護者の方々だけではなく、学校や関係機関からも困り感やニーズを情報収集し、「いま」必要な支援、また将来を見据えての療育を取り入れて児童がスムーズに進路へ移行できるよう工夫していきます。
3	◎家族支援 送迎時や連絡時、不安や悩みがないか聞き取りを行い、必要があれば送迎時や電話で相談を行っています。連絡帳に気になる様子、悩んでいる様子がうかがえた際はこちらから連絡し、話を聞くようにしています。また、昨年度からは保護者会を開催し、保護者間での交流の機会を設けています。	保護者会では在籍中の児童保護者だけでなく、既に事業所を卒業された先輩方もご招待して開催しています。卒業前、卒業後にやっておいてよかったこと、知っておきたかったことなど、細やかな情報をも共有し卒業前に慌てず移行支援ができるよう努めています。	学部別や思春期などの年齢別、また進路についてなど、テーマを絞って密に情報交換を図ったり、助言をしあえる機会を検討中です。保護者の方々からの現在の困りごと、将来の不安などが少しでも払拭できたり、和らいだり安心した子育て、療育ができるようなお手伝いができればと感じています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	◎専門的支援 言語聴覚士、作業療法士、理学療法士の配置がなく、研修やネットでの情報から学び、支援に活かしています。発語でのコミュニケーションスキルが難しい児童が多く在籍している為、早期からの専門的な言語訓練が必要であると考えています。歩行が不安定、片麻痺の児童に事業所でも訓練ができると良いなと感じています。	専門的な有資格者、児童指導員の拡充。また、個別サポート加算（Ⅰ）や強度行動障害加算が付帯されている児童が多く利用しているが、全ての職員が強度行動障害の基礎、実践研修の受講が済んでいません。支援の統一を図り、ディスカッションは重ねていますが、基礎的、実践的な研修を受講し理解を深める必要があると考えます。	職員募集の媒体を増やし、職員の配置数を増やしていきます。専門的な研修を受講し、状態を把握、手厚い支援を実施できるような手順書を作成し、全職員間で共有。保護者の方々へもペアレントトレーニングといった形で家族参加型の支援を共有していくことを検討しています。
2	◎外出支援 遠出や様々な場所への外出、四季を感じられる場所に出かけることが困難な状態です。数名は参加できても全員での外出、全員が参加するということがあまりできていません。職員の体制だけでなく、強度行動障害の状態にある児童や自傷、他害行為、エスケープなどのある児童が多く、安全確保が難しい状況です。	支援が上手くいかなかった時は外出時の移動中に癇癪を起こしたり、外出先で大声で泣く等、児童も混乱してしまいます。大きな声を出したり、暴れたり、破壊行為がある為、周囲にも驚かれたり、ご迷惑をかけてしまいます。マンツーマンで付き添って外出支援をしてもスムーズにいかないことも多々あります。視覚的な支援の弱さ、児童には情報量が多い場の為、混乱するなどが考えられます。	児童が行きたいところ、逆に苦手な場所をアセスメントし児童が安心して出かけられる場所を模索していきます。外出前には視覚支援を取り入れ、事前学習を行います。マンツーマン、少人数から外出の機会を増やし、児童、職員が慣れてきたら徐々に人数を増やし、全員で外出できるよう練習を重ねていきます。
3	◎地域交流、社会参加 隣人の高齢者施設の方々とは交流や合同行事などを企画し実施していますが、他の地域住民の方とも挨拶だけでなく行事や活動を一緒に行えたらと感じています。児童館や学童の児童とも交流を図る機会がもてず実施できていません。	地域のお祭りやイベントは週末の開催が多く、事業所の休業日に当たる為、参加ができていません。防災訓練にも代表の職員のみが参加となり、児童が参加することはできませんでした。	災害時や緊急時に地域住民の方々と助け合いができるよう日頃からコミュニケーションを密にとり、お互いの認識を深められるよう努めていきます。地域の方々が参加しやすい行事を企画しご招待したり、自治会の方々と合同のイベントを企画できないかを検討していきます。もっと地域の中に参入して児童が社会参加できる機会をつくり、より良い支援に繋げていきたいです。